

2002年 卒業研究要旨

砂原 千晶

私たちの日常生活において、「愛」や「恋愛」ほど頻繁に話題になることは見当たらないのではないだろうか。TV ドラマ、小説、漫画、歌謡曲等、メディアからの情報も多い。恋愛がらみの事件などもクローズアップされており、行き過ぎた愛の形として、ストーカーや、家庭内暴力などの犯罪も頻発している。恋愛という社会現象があるということは、社会によって恋愛という行動様式がある程度制度化されていることを意味する。

私が“恋愛”を卒業研究のテーマに選んだ理由は、至る所で取り上げられ社会問題にもなっているにも関わらず、恋愛は個人の問題であるとされ学術的にはあまり取り上げられてこなかったことにある。しかし私たちにとって最も身近なコミュニケーションの一つである恋愛が私たちに及ぼす影響は決して小さくない。そこで私は恋愛というものが私たちにとってどのような意味をもつものか、また恋愛というものを私たちがどのように解釈しているのかを探ってみたいと思ったわけである。

恋愛には社会的に作られた様々な幻想があるが、処女性が重要視されてきた近代と、ブルセラ少女¹や援助交際などが取り上げられた現代では大違いである。それでは、現代の若者たちの恋愛についての考え方や付き合い方はどのように変わったのだろうか。また、変わっていない部分はあるのだろうか。この論文の目的は、恋愛の現代の特徴を見出し、その時代的な特徴、男女の違いによるジェンダーパターンの差異や類似性を明らかにしていくことにある。

そこで、まず、第1章では恋愛の特殊性、そして恋愛のイメージをとりあげ、恋愛とは何かを論じた。また愛とは何かを探るために、愛の三角理論、愛の類型という愛に対するアプローチを論じた。その結果、恋愛とはコミュニケーションの中でも二者排他的な特殊性を持ち、ある特定の相手に対する愛情であり、愛には人々の関心をそそるさまざまなスタイルがあることがわかった。また恋愛には性差や地域性、時代性、恋愛経験が深く関わっていることも明らかになった。そして第2章では、恋愛の歴史について、まず愛に対する生物学的アプローチと社会的アプローチをそれぞれ考察し、両者は密接に関わっていることがわかった。そして欧米の恋愛の歴史を考察し、欧米に影響を受けたと思われる日本の恋愛の歴史、特に近代の恋愛を論じた。その結果、20世紀後半から性的表現と結婚の必要条件として愛が必要だという恋愛の規範がいつそう重視されることがわかった。第3章では、近代的恋愛感情と現代的恋愛感情との比較を行い、近代で考えられていた恋愛が現代ではどのように変わっていったのか、またコミュニケーションとして恋愛とジェンダ

¹ 「ブルマー」と「セーラー服」の短縮形。制服の少女、主として名門私立学校在学中の女子中高生たちの使用済みブルマーやセーラー服、パンツなどをセックス・ショップで売り出す現象のこと（上野千鶴子 1988:10）

一についてどのような男女の違いがあるのかを論じた。その結果、恋愛のゴールとして結婚があり、恋愛から結婚してセックスという近代のライフコースが一般的ではなくなり、現代では快樂のための性も自由になっていることが明らかになった。しかし快樂の為に性を求めることが性の氾濫として問題視されている一方で、恋人同士にとってセックスは大切な身体的コミュニケーションであり安らぎや愛情確認であることもわかった。そして恋愛とジェンダーでは「男らしさ」「女らしさ」という望ましい性役割が混乱しているのではなく、感覚の類似（話が合う、気が合う等）が望ましい役割として浮上してきていることがわかった。また恋愛が魅力的であり、恋人がいてセックスしているのが当たり前という時代の展開から取り残されている男女は確実に存在し、彼らにとって自由なセックスは、ひたすら拡大された不安感や孤独感を増幅させる効果をもたらしたことも興味深い発見であった。第4章では、筆者が行った「恋愛コミュニケーションに関する学生意識調査」のデータをもとに、現代の若者の恋愛観やコミュニケーションの特質などを考察した。調査の結果、現代の若者は婚前性交を当たり前のことと考えており、「体だけの関係」を認めている人も35%以上に及んでいたが、実際の行動レベルでは、「性関係」は恋人との間に限られていることが多かった。現代では恋愛と性の結びつきが離れていると指摘されているが、恋愛と性が全く別々なものとして認識されているわけではなく、やはり性行為は恋人同士の特別なものとして意識されていることが明らかになった。また男女とも対等な関係を望んでいる一方、特に女性は男性に望ましい性役割を求めている。このことから比較的女性の方が交際相手に求める条件が男性より高く、より有望な男性を望み、選り好みが高いのではないかとということがわかった。恋愛の進め方に関しては、女性が受け身の近代のスタイルとは異なり、男女とも徐々に恋愛関係を進展させていくことが特徴であった。また、一緒にいて楽しい、価値観が合うなどの感覚の類似の要素が非常に重視されていることも明らかになった。

また恋人同士の連絡方法として携帯電話があげられたが、通話よりもメールが86%と高かった。恋人同士にとって気持ちや連絡を容易に伝える便利なツールであるが、一方携帯電話は個人の交友関係がわかるので、二者排他的な恋人達にとっては不安の要素にもなっているかもしれないということが新たにわかった。現に恋人の携帯電話を見たいと思ったことがある人は48%と約半数いた。そして実際みた人は2割弱いた。しかし、恋人といえどもお互いに踏み込まない方がよいこともあると考える人は90%以上であり大半の人が、恋人同士の間にも隠し事はあると認識している。束縛や干渉についても「あまりしない」と答えた人が半数以上いた。恋人との間に隠し事は当然だと思いつつも、恋人の交友関係が気になっている。また、恋愛傾向では「好きになる」より「好かれない」と考える人が多く、64%の人が「好かれない」と考えている。これらのことを合わせて考えると、深入りして、自分が傷つくのを恐れ相手にあまり踏み込みこまない一方で、相手には愛され続けることを望んでいるのではないだろうか。